

# 遠州病院心臓リハビリテーション

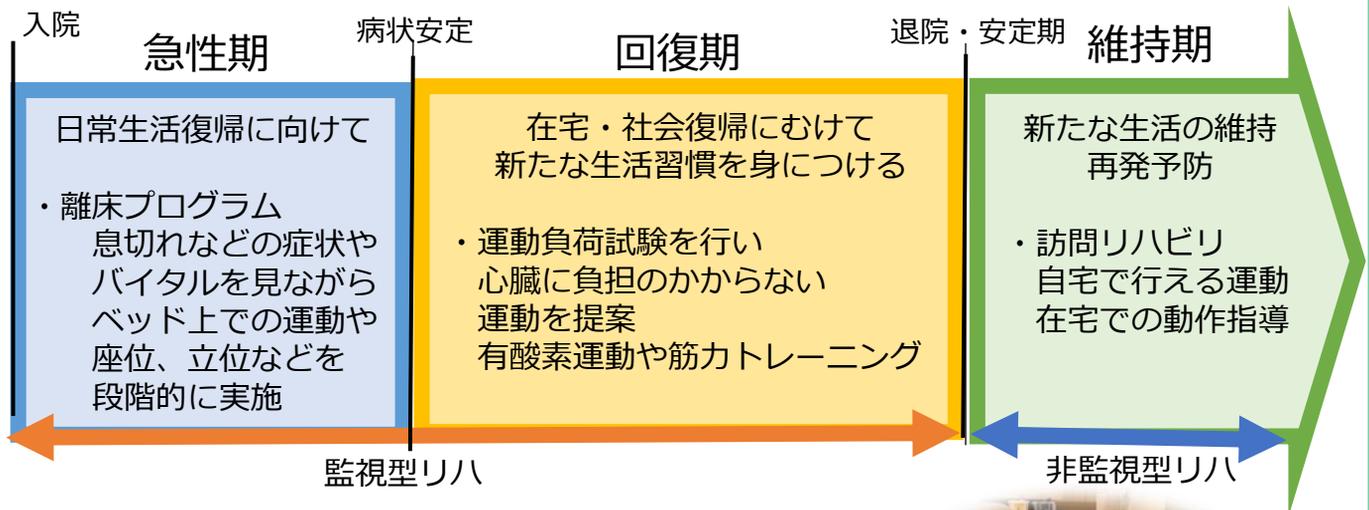
## 1. 心臓リハビリテーション

循環器疾患の患者さんは心臓の働きが低下し、安静生活を続けることで運動能力やからだの調節機能が低下しています。そのため退院してからすぐには強い活動ができず、またどの程度活動して良いのかが分からない為に不安が残ります。これらに対して適切な運動療法を行うことが役に立ちます。患者さんが体力と自信を取り戻し、快適な家庭生活や社会生活に復帰するとともに、再発や再入院を防止することを旨としたリハプログラムを提案し、実施します。



## 2. 対象と治療の流れ

- 対象疾患**
- ・急性心筋梗塞
  - ・狭心症
  - ・心不全
  - ・心臓手術後
  - ・大動脈疾患
  - ・閉塞性動脈硬化症（健康保険適応疾患）



### リハ介入による効果

- ・息切れ軽減
- ・心肺機能改善
- ・動脈硬化改善
- ・高血圧改善
- ・高血糖値の改善
- ・不整脈の予防
- ・社会生活の満足度向上 など



### 3. 心肺運動負荷試験 (CPX)

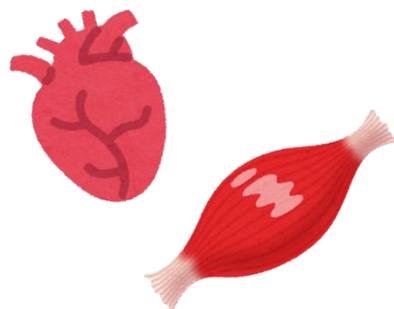
呼気ガスモニターと呼ばれる機器を用い、専用のマスクを装着しながら運動を行うことで空気の流量やガス濃度を感知し、体にどのくらいの負担がかかっているかを調べる検査です。医師立ち合いのもと心電図や血圧を測定しリスク管理をしながら行います。



#### CPXからわかること

##### ・狭心症や心不全の重症度評価

どのくらいの活動レベルで狭心症の悪影響が出るのか、運動時の心機能や呼吸機能、骨格筋機能等が正常かどうか評価できます。



##### ・息切れの鑑別

CPXの結果とその他の検査(心エコー検査、血液検査等)から息切れの原因が心臓や肺によるものなのか、貧血や体力低下によるものなのか鑑別できます。

##### ・自分に合った運動負荷

循環器疾患がある方でも長時間安全に続けられる運動の強さがわかります。また、日常生活の中で安心して行える活動と控えた方がよい活動がわかります。



# 遠州病院回復期病棟での 心臓リハビリテーション

## 1. 循環器患者における回復期リハの必要性

循環器疾患で入院された患者様の中には、治療に伴い身体機能の低下が見られる方や重複障害を来した方、入院前または入院を契機にADLの低下が顕著となる方がいます。身体機能が低下したまま退院し予後悪化してしまうことを防ぐため、当院回復期病棟では、入院中に効率よく身体機能を向上させ家庭復帰、社会復帰を目指すことを目標としています。

## 2. 当院回復期病棟のメリット

### ・リハ医監修のもと質と量を担保したリハビリテーション

リハ医の指示のもとCPXによる運動耐容能評価  
1日2時間程度の個別リハビリテーション  
マシントレーニングや有酸素トレーニング  
疾病管理指導

トレッドミル

### ・徹底したチーム医療

医師・看護師・理学療法士・作業療法士・  
言語聴覚士・医療ソーシャルワーカーなどが  
参加し定期的にカンファレンスを実施、  
プログラム内容や疾病管理指導について  
徹底したチーム医療を展開します。



リハ回診

### ・内科や透析科と連携したリスク管理

回復期では、運動負荷が増加するため循環器疾患の増悪が懸念されます。そのため、当院は循環器科、腎臓内科、透析科などの他科と連携し詳細な検査や患者様が容態変化した際に急性期治療を迅速に行っています。

### ・一人一人に合わせた退院支援

退院前訪問指導（家屋調査）に加え、  
MSWや訪問リハビリスタッフと  
密に連携し患者様に合わせた退院後の  
各種サービスの提供支援を行います。

カンファレンス



退院前訪問指導